

## フィラリア症検査および血液検査

フィラリア症予防を始める前に、少量の血液で、ミクロフィラリア検査とフィラリア抗原検査を行います。この時、ご希望があれば詳しい血液検査を行います。その場合検査内容により採血量が変わりますので、受付の際にご希望をお話してください。検査の内容と料金は下記の通りです。

**\* 血液検査をご希望のワンちゃんは正確な検査結果を得るため8時間以上の絶食をしたうえでご来院ください**

### 抗生物質が効かない

### 『細菌検査（抗生物質感受性検査）』

人の医療では以前から抗生物質の効きにくい細菌による感染症が問題になっています。例えば、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）やVCM（バンコマイシン）耐性腸球菌、多剤耐性緑膿菌などが代表例で、感染すると通常、一般的に処方される抗生物質では効き目がなく、感染が長期化したり重篤化したりしてしまう大変厄介な感染症です。最近では、動物の医療でも拡大傾向を示しています。

細菌が原因で起こる病気は数多くあります。特に最近多く見られるのが「細菌性膀胱炎」です。その他にも「細菌性の皮膚炎」や「乳腺炎」「前立腺炎」「歯周炎」「結膜炎」など様々ですが通常の抗生物質では効かない感染症が増え、当院でも耐性菌がしばしば検出されるようになりました。これは大きな問題です。

人のほうでは抗生物質の乱用がこの問題を大きくしていると言われていますが、動物のほうでも同じ理由が考えられます。

この問題については2つの対策が考えられると思います。

1つは耐性菌を作らないこと。耐性菌は不適切な抗生物質や不完全な抗生物質の投与により作られるのです。ですから、適切な抗生物質を適切な期間投薬することで耐性菌が作られにくくすることが出来ます。

具体的に言えば、感染症が存在した場合、その原因菌を取り出して検査し、その細菌にあった抗生物質を投薬すれば良いのです。そのために行う検査が『細菌検査』で、特に

『抗生物質感受性検査』が重要になります。この検査では感染した細菌がどの抗生物質にどのくらい効くかを調べることが出来ます。また、適切な抗生物質を投薬しても、症状が消えたからといって途中で投薬をやめてしまえば耐性菌を作る原因となりますので、完全に治るまで投薬を続けることも大事なのです。

もう1つは、耐性菌に感染した場合には、早期に効果のある抗生物質を見つけて投薬することです。しかし、耐性菌の場合、効果のある抗生物質は少なく、きちんと検査をしないと見つけるのが大変なのです。

以前、当院での細菌検査は外部の検査センターを利用していましたが、結果が出るまでに費用と時間がかかっていました。そのため、治療が遅れてしまうこともありました。そこで、当院では費用をおさえ、できるだけ早く感受性の結果を出すために、院内での細菌検査を行えるように体制を整えてきました。それにより3～5日程度で結果が出るようになり有効な抗生物質を選択できるようになりました。検査費用も以前は5千円かかっていたものが2千円で出来るようになりました。これにより以前に比べ、的確な治療がスムーズに行えるようになりました。

今後必要であれば細菌検査（抗生物質感受性検査）をおすすめする事があると思います。大変大事な検査です。ご理解のほど宜しくお願いします。



## 迷い犬の情報をホームページで紹介しています

大牟田市動物管理センターでは迷い犬の保護をしていますが、犬の飼主を探すために大牟田市のホームページに、犬の写真や詳細を掲載しているそうです。ワンちゃんがいなくなった場合、いなくなった辺りの動物病院やペットショップへ連絡したり、警察署や交番への連絡、それと忘れてはいけないのが動物管理センターへの連絡です。そしてこれからは大牟田市ホームページの確認をしましょう。

動物管理センター 0944-52-7493

大牟田市ホームページ <http://www.city.omuta.lg.jp>

市民のひろば ワンワン情報および新着情報

## 病気シリーズ

### 巨大結腸症（メガコロン）

巨大結腸症とは結腸が異常に著しく拡張した状態のことをいい、イヌよりもネコに多くみられます。通常、慢性的な便秘になっているため、拡張した結腸内には硬い大量の糞塊が停滞しています。

<原因>

巨大結腸症は先天性の場合もありますが、それよりも後天的に発生することの方が多ようです。先天性巨大結腸症の例としてはマンクス（尾の無い猫種）にみられる仙骨・椎骨の奇形に関連して起こる場合があります。後天的な原因としては排便を長期間にわたって妨げるような物理的あるいは機能的閉塞があります。直腸および結腸内腔を狭窄するような腫瘍があったり、骨盤骨折の変形治癒によって直腸の狭窄が起こったための物理的閉塞が多くみられますが、内分泌疾患や結腸の神経支配の異常などによる機能的閉塞によって起こる場合もあります。また、こうした原因が認められないにもかかわらず巨大結腸症が起こった場合は特発性巨大結腸症といえます。

<症状>

もっとも多くみられる症状は慢性的で頑固な便秘です。しぶりや頻繁に便意を催すといった症状も一般的にみられます。また、便秘に続発して嘔吐や脱水が発生することもあり、その症状が長期間続いた場合は食欲不振や体重減少などの症状もみられます。

<治療>

巨大結腸症は不可逆性のため、拡張した結腸を元に戻すことはできません。重度の便秘になっている場合は麻酔をかけて宿便を排出させる必要がありますが、通常の治療としては、食事改善と緩下薬の投与などで便がスムーズに排出できるよう維持していくことになります。また、定期的な浣腸が必要になる事もあります。さらに特発性巨大結腸症の中で維持が困難な難治性の便秘が継続する場合は手術を行うこともあります。

## わんこ・にゃんこ日記

### 『メヤリーの日常』 by 中村

メヤリーが昨年春に家に来て、早いものでもうすぐ1年になります。

高齢なので寝てることも多いのですが、毎日一緒に暮らして思っていたことは、意外と“どんくさい”猫だなあということです。トイレの前後によく部屋の中を走り回ったりするのですが、自分の毛ですべて転んでしまうことがよくあります。時にはフローリングの上をつるーと2mくらい滑って行ったことも・・・真顔のままですべていくので、かなり笑えます。

その他にもソファからずり落ちそうになったり、扉にぶつかったり、私が帰宅したのに気が付かずに1時間くらい爆睡したりと、猫とは思えないくらい“どんくさい”なのですが、19歳にもなれば多少は仕方ないなと思います。メヤリーも特に気にするでもなく、年の割には元気で楽しいシニアライフを送っているのではないかと思います。



## ホームページ開設

当院もやっと世間の波に乗り、ホームページを持てることになりました。作業は最終段階に入り、3月中には皆様にご覧いただけるようになると思います。病院やスタッフの紹介のほか、休診案内や病気のこと、しつけのことなどなど・・・皆さんの役に立ち、楽しんでいただける内容にしていきたいと思っています。診療の中では、皆様とゆっくりお話もできないため、病院のご紹介も不十分で、ご不明な点多かったと思います。ホームページをご覧いただくことで、それを少しでも解消できたらと思っています。また併設で隣DADAペットハウスのご紹介もしております。トリミングの内容、商品のご案内、もしています。ギャラリーではお客様のワンちゃん・ネコちゃんのご紹介もしています。こちらもぜひご覧になってください。

かだ動物クリニック

/ DADAペットハウス

<http://www.kadavc.com>

